

# 忙 申 閑

とにかくツッコミ所が満載なのだ。

11月1日に行われた財政制度等審議会財政制度分科会「社会保障」のことである。

診療所の利益増を持ち出し、診療所に限り診療報酬を下げるのが適当と、財務省は主張する。松本吉郎・日本医師会長は「そもそもコロナ禍で一番落ち込みが激しかった2020年度をベースに比較すること自体、ミスリード」と語気を強めて反論された。

どれどれ、私も資料を読んでみよう。なかなかもっともなご指摘。診療所収益や診療所数の増加が、棒グラフで分かりやすく表示してある。ん、待てよ。グラフの縦軸、始点がゼロとちゃうやん。えらいオーバーに増えてるように見えるな。有意差の検討もないし。医薬品費の消費税分、こっちが持ち出してんねんで。一般診療所院長の給与が3,000万円!? なんや、下の方にち

っこい字で書いてるで。「一般診療所（医療法人）の院長に係る平均給料年（度）額及び賞与の合計は2,730万円とされている」はあ？ 四捨五入？「給与費には、職員の給与・賞与のほか、退職金、法定福利費が含まれている」おいおい、年取って退職金も含むんかいな。ほんまこれ、中央省庁が出した正式な資料かいな？ 健康食品の誇大広告みたいやな。

病院改革の案も読んでみよう。令和6年度概算要求で「地域医療介護総合確保基金により、大学病院等からの医療機関に対する医師派遣の充実」とある。30年前と勘違いしてへんか？ 大学病院に若手の先生が余っているとでも？「公立病院の経営者（院長）に経営マインド・コスト意識を持たせるための取り組み（研修等）を省庁横断的に取り組んでいく必要」やって。「あ

# 財務官僚の皆さんに一言

広報委員会副委員長 堀井 孝容

んたに治療しても儲からへんから、もう来んといてください」って患者さんに言う練習でも研修でやるんかいな？ 公立病院が増収に励んだら、国保や社保が赤字になることくらい分かってますわな？

極めつけは医師偏在対策。「開業医から病院勤務医へのシフト」やって。兵糧攻めにして診療所を一つひとつ潰していくつもりやな。

野放図な健康食品市場による人体への被害や、保健所を激減させて防疫がずたずたになったところに襲ってきたコロナ。言っときますけど、政府の愚策を尻ぬぐいしてんのは、うちら医療者なんやで。

松本日医会長の言われるように「各論も多々問題があり、すべてに反論していたらきりが無い」のである。しかし待てよ。英才揃いの財務官僚の方々が、こんな稚拙な

資料を本気で出すだろうか？ もしかすると、これは医師会をはじめとする医療団体を交渉のテーブルに引っ張り出すための陽動作戦ではないだろうか？ トリプル改定の交渉は、始まったばかりだ。

末筆に財務官僚の方々へ。

「皆さんの官僚としての激務と責務に敬意を表します。予算配分という、国家事業の最枢要たる職務を全うすることは、並大抵の精神では成しえないと拝察いたします。でも予算を削減する前に、それがどういう結果を引き起こすのか、熟慮ください。医療はビジネスである前に、インフラなのです。インフラのない所には人は住めません。我が国のかけがえのない国土をこれからどうしていくか、私達と一緒に膝を突き合わせてじっくりと話し合いませんか？」